

## R2 地域協働研究（ステージI）

### R02- I -32 「道の駅「青の国ふだい」の強み・ポテンシャル分析」

課題提案者 普代村

研究代表者 総合政策学部 新田義修

研究チーム員 山本健（総合政策学部） 土澤智（普代村） 小田島玄・千葉実（岩手県）

#### <要旨>

普代村では、三陸鉄道普代駅に併設される村のアンテナショップ、観光センター、駐車場などを改修して令和3年度に道の駅「青の国ふだい」の開業を見込んでいる。本研究では、顧客ニーズを知るためのアンケート調査、マーチャンダイジング戦略を検討するための県内34か所の道の駅に対する事例調査を実施し、その観光・交流・物流の拠点としての機能をいかに発揮できるか、そのためにどのような取組が必要なのかについての基礎的な情報の提供と共有を図った。商品戦略、商品構成、施設設備などについての実装、評価、改善の具体的な進め方を関係者間で検討を行う。

#### 1 研究の概要（背景・目的等）

普代村では三陸鉄道普代駅に併設する村のアンテナショップを令和3年度に「道の駅青の国ふだい」としての認定と供用開始を目指している。村の第三セクターである株式会社青の国が運営し、観光・物産・交流の拠点としていきたいと考えている。隣接する野田村にも田野畑村にもすでに道の駅が設置されており、いかに差別化を図り安定した経営基盤を築くことができるか、消費スタイルの多様化などを踏まえた上でいかに的確な顧客ニーズに応えられるかが課題である。村民の購買行動や潜在的なニーズを把握しながら、中心部の既存店舗とも共存していける商品構成を検討していく必要がある。

#### 2 研究の内容（方法・経過等）

まず村民に対して郵送によるアンケート調査を実施し、村民の購買行動の現状把握と新たに設置される道の駅に対する要望を確認するとともに、まだ十分に認知されていない道の駅の計画に対して、その考え方や必要性について理解と積極的な関与を促すことも大きな目的のひとつとして位置付けた。アンケート調査と並行して、村議会への説明も図り、村全体が一丸となって新設の道の駅を盛り上げていくことを狙った。村民アンケートを行う一方で、県内に設置された34か所の道の駅について訪問と簡単な聞き取りを中心とする実態調査を行い、普代村の道の駅にとって参考となり得る事例をまとめた。特に商品戦略（何を売るべきか）、商品構成（どのような構成で売るべきか）、施設設計（どのような陳列レイアウトがよいか）などをアンケート調査の結果も併せて分析をして方向性を明らかにした。

#### 3 これまで得られた研究の成果

アンケート調査は住民基本台帳をもとに10代から80代までの村民をそれぞれ125名ずつ抽出し、合計1,000名に対して郵送で調査票を送付した。設問は日常の購買行動や決定要因、村外からの来訪者に訴求できる村の魅力についての意見を把握するよう考えられたもので、施設設備や運営の参考になる情報の把握を目指した。2020年12月上旬より発送を開始し、2021年1月末まで返送を受け付けた。その結果、387通の有効回答を得ることができた。調査項目は下記のと

おりである。

#### 【属性】

性別、年齢、職業等、居住地区、買い物エリア、普代駅のアンテナショップ利用頻度

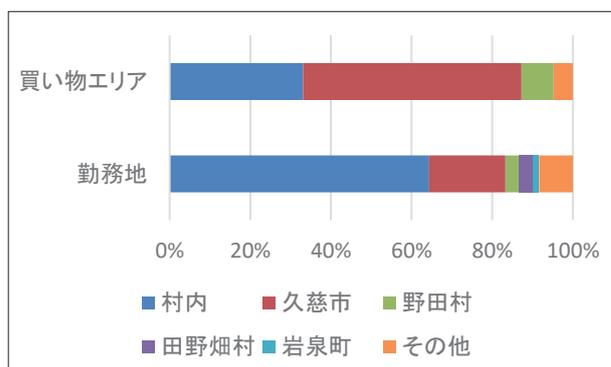
#### 【利用・購買決定要因】

道の駅整備の効果として期待するもの  
(交流・産業振興・情報発信の観点から)  
どのような商品、施設、設備があれば利用するか  
(択一式、自由回答)

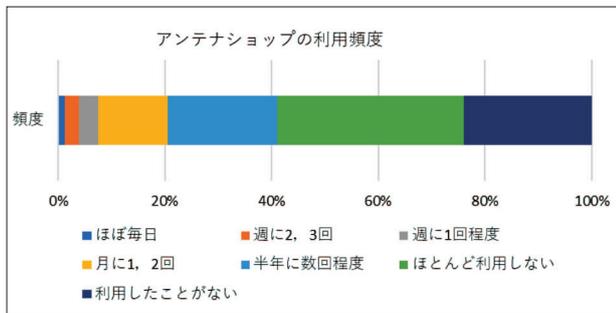
#### 【村外への訴求】

村のどの魅力を活かした道の駅がよいか  
どのような商品、施設、設備があれば来訪者が来るか  
(択一式、自由回答)

主な結果は以下のとおり



勤務地等は無職の人もあることから村内と回答した割合が6割以上にも及ぶ一方、買い物エリアは久慈市が圧倒多数を占めていた。また普代駅に併設されたアンテナショップ「あいだ」はそのまま道の駅の販売機能を担うことになっているが、その利用頻度は驚くほどに低かったことが分かった。食料をはじめ日常生活に必要な商品の購買は商店街で事足りるため、駅やバスを利用する人々が立ち寄る程度にとどまっているものと思われる。



○道の駅がもたらすと期待される効果の上位5件

1. 来訪者が増え村に活気が生まれる
2. 観光拠点ができ観光振興につながる
3. 村の特産品が売れる
4. 村の知名度やイメージが向上する
5. 村の農林水産業が活性化される

○道の駅にあったらいいと思う商品や施設

1. 軽食提供施設
2. 特産品販売施設
3. 産直施設
4. 観光案内施設
5. 日用品販売施設

○普代村がPR すべき強み

1. 海や山などの豊かな自然
2. 村の水産物
3. 鶴鳥神楽などの伝統芸能
4. 海や空の青に満ちた青の国のイメージ
5. 村の特産品

○魅力的な道の駅となる条件 (自由回答の一部抜粋)

- ・トイレが清潔で衛生的であること
- ・駐車場の枠が広くとってあること
- ・コンビニの併設
- ・Wi-Fiや無料で使えるコンセント、ワークスペース
- ・キャッシュレス決済
- ・特産品や野菜や果物の産直品の充実
- ・体験学習の機会
- ・宿泊施設や食堂、カフェの併設

○県内の他の道の駅

- ・駐車場の枠数
  - 普通車が100台以上
    - 「厳美溪」「みやこ」「風の丘遠野」「高田松原」「やまびこ館」
    - 「石神の丘」「たのはた」「平泉」「にしね」
  - 40台以下
    - 「三田貝分校」「紫波」「みずさわ」「むろね」「釜石千人峠」
    - 「みやもり」「白樺の里やまがた」「錦秋湖」「はなまき西南」
- ・大型車が15台以上
  - 「平泉」「石鳥谷」「雫石あねっこ」「高田松原」「みやこ」

- ・大型車が5台以下
  - 「のだ」「たのはた」「やまだ」「いわいずみ」「種山ヶ原」
  - 「釜石千人峠」「にしね」「おりつめ」
- ・高速道ICに近接
  - 「さんりく」「釜石千人峠」「にしね」「とうわ」「おりつめ」
- ・公共施設等に近接
  - 「平泉」「石神の丘」「石鳥谷」「雫石あねっこ」「高田松原」
  - 「たろう」「おおの」「厳美溪」「とうわ」
- ・道の駅がまちのにぎわいの中心になっている
  - 「雫石あねっこ」「たのはた」「たろう」「遠野風の丘」
- ・観光拠点ができ、観光振興につながる
  - 「かづの」
- ・地域の特産品が一番の売れ筋
  - 「種山ヶ原」「高田松原」「釜石千人峠」「おりつめ」
- ・道の駅人気ランキングにノミネートされ知名度向上に貢献
  - 「雫石あねっこ」「遠野風の丘」「平泉」「くじ」
- ・地場産品の販売に熱心な道の駅
  - 「やまびこ館」「のだ」「やまだ」「紫波」「厳美溪」
- ・軽食提供施設
  - 「むろね」「いわいずみ」「遠野風の丘」「雫石あねっこ」
  - 「たろう」「はなまき西南」
- ・そこに行かなければ買えない地域の特産品がある
  - 「にしね」「のだ」「やまだ」「遠野風の丘」
- ・産直の設置は商品を売りに訪れる生産者が同時に有力な消費者(購買者)にもなる
  - 「石神の丘」「やまびこ館」「厳美溪」
- ・観光案内施設
  - 「高田松原」「遠野風の丘」
- ・日用品販売施設(道の駅が呼び水となって近隣にコンビニ等が出店)
  - 「石鳥谷」「たろう」「みやもり」「はなまき西南」
- ・近接する自然資源が人気の道の駅
  - 「たのはた」「はやちね」「錦秋湖」「厳美溪」
- ・優れた水産加工事業者が供給する商品
  - 「やまだ」「みやこ」「高田松原」「たろう」「たのはた」
  - 「さんりく」「のだ」「くじ」

4 今後の具体的な展開

令和2年度に実施した調査結果から導き出した方向性を関係者間で共有し、新生の道の駅が目標とすべき売上水準を掲げ、実現に向けた具体的な方策の検討を行う。また長期にわたり安定的な収益基盤を築く上で不可欠な公共サービス機能を有する事業の提案を行う。さらに村が運営している国民宿舎くるさき荘事業の一括管理も視野に入れながら、沿岸地域に点在する観光拠点や震災伝承施設へのゲートウェイ機能についての検証を行う。

5 その他(参考文献・謝辞等)

アンケート調査に応じて、さまざまな有益な示唆をくださった村民のみなさまには感謝の念を表します。